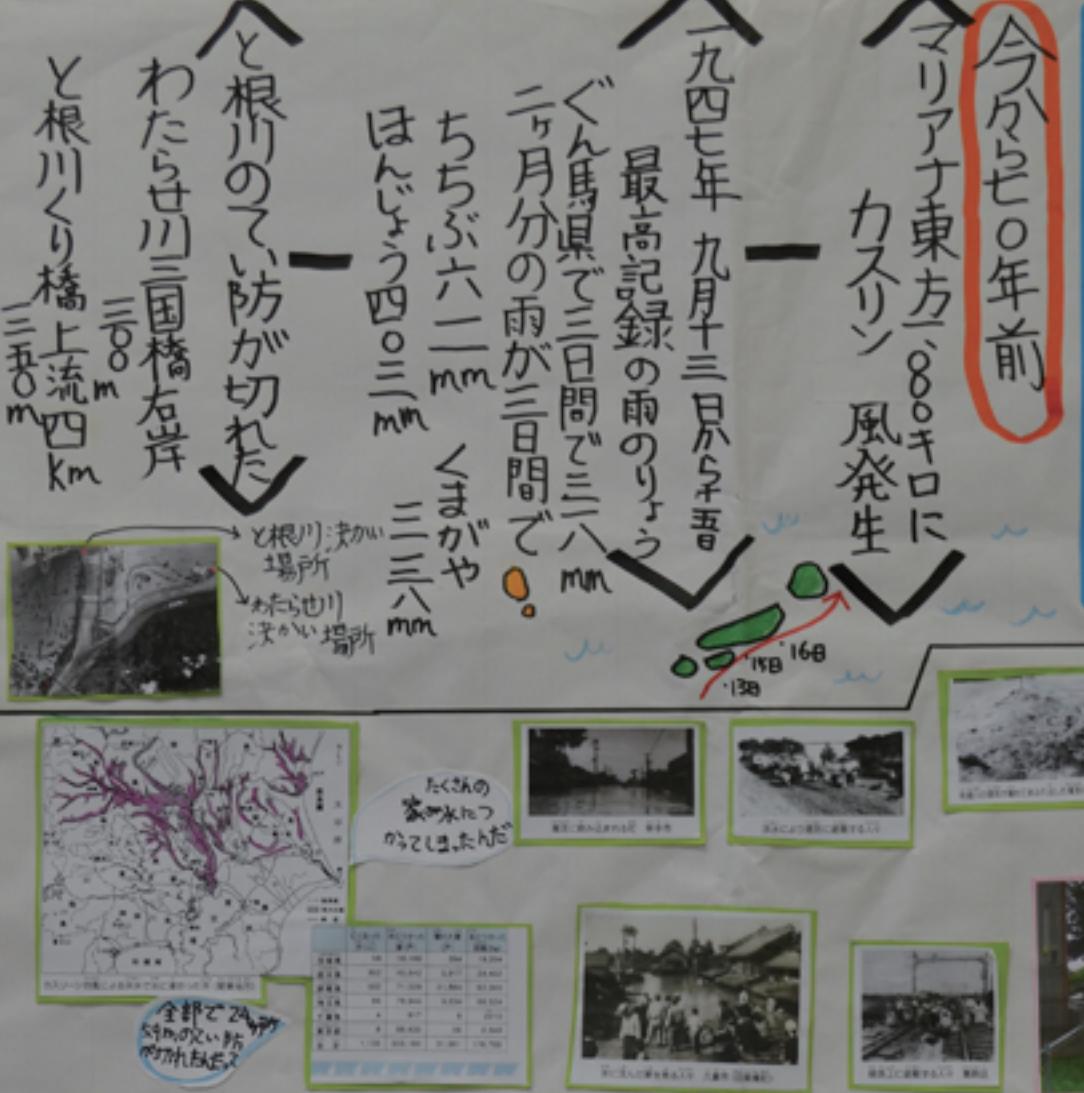


あやーひ新聞

発行日
8月 8日
発行者
小川 朝日

ひがいの様子

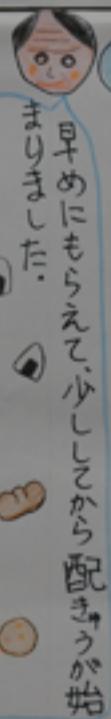


私のご質問

- ① 家がなくなた人は、どうしたのか？
 - ② 食べ物はどうしたのだろう？
 - ③ 動物たちは、どうやって身を守ったのか？
 - ④ しづんだ家を見て人々はどう思ったのか？
 - ⑤ 病気やけがをした人は、どうしたのか？
- 私がお答えします
- こう水にぞなえてどめ
家は船かねた。
- 水深(みづか)

体験者へインタビュー

- ① 学校、高台にある線路やてい防にひなん
② 木のつながた所から船でおもすびやパンじや
がいも、うどんなどが運ばれた。
- ③ 泳いだり屋根にのて助けをもとめた。
- ④ ぼうぜんとしすんでいく家を見てた。
- ⑤ でんせん病を防ぐために赤十字の人たち
が船てきてくれた。



まとも

時間がたってから土手にテントができ、その後パンが配られました。家にかえられたのは早く、お風呂もとどきました。

早くも水をなくす

スパーつい防
わたらせ川水路
首都けんかいがく放

身を守る工夫

ひなん場所のくにん
ひなんかんこがてたらすぐ
にひなん
持ち出しにくうのそなえ
(き重品、いろいろせん面用品
えす水食りふる葉等)



工夫